

前回予告編では、クリニカルパスについてお話しする予定でしたが、改訂作業に入ってしまったので、もう少しお待ちくださいね。

ということで、今回は検診の受け方についてお話ししようと思います。

皆さん、乳がん検診は受けたことがありますか？

行かなきゃ、とは思っても、なんとなくそのままになってしまうことが多いかもしれません。自治体（川口市）からお知らせのお手紙が来ませんか？これまたひとつ、そうだったと思い出させてくれて、背中を押してくれるものです。お手紙の中には、検診を受けられる施設が載っています。川口市の場合、セット検診および視触診検診となっていますが、この視触診検診は来年度からは無くなります。視触診のみの検診は推奨せず、というか、ダメ！なんです。基本的にしこりなどの症状がある方は、外来受診が必要ですから、しこりがあるから検診を受けるというのは意味がありません。検診というのは、症状がないけど、何かが潜んでないかしらというのをマンモグラフィでチェックするものとお考えください。日本は昔から（10年以上前まで）視触診が主流であったために、皆さんの“検診”の概念に根付いてしまっているのですが、実際視触診のみで見つかる乳がんはほとんどないのです。セット検診は、マンモグラフィ+視触診です。マンモグラフィは必須で、それと一緒に視触診というのは、悪くはありません。市によっては、効率とがんの発見率などを考慮して、乳がん検診はマンモグラフィのみとしているところもあります。

検診を受けている方も、良性のしこりがあるとか、毎回検診で引っかかってしまうという場合もありますね。施設にもよりますが、検診だけで経過を見られるのは少ないと思います。当院は、市内、市外の乳腺クリニックと提携しています。乳腺クリニックは、乳腺外科がご専門であった先生がいらっしゃるので、経過を見ていただくことができます。前年の結果と比較して変わりがなければ、また来年で良いですし、変わりがあられる場合には、検診結果あるいは紹介状をお持ちになり、当院にお越しくください。精密検査を行い、納得のいく結果のご説明をいたします。がんが見つかった場合は、多職種チームで適切な治療をいたします。それこそが、地域がん拠点病院である当院の使命であると考えております。

広報誌「花水木」39号にも、検診の種類、高濃度乳房について記事を載せていますので、ご参考にしてください。また、10月26日（土曜日）には、川口市保健所 地域保健センターで、『乳がん検診のいま』というお話を予定しています。ぜひ、いらしてください。